

デンマークのデザインから学ぶ生きる意味と幸せの感じ方

伊藤 朱子

「北欧は福祉大国」というよく聞くフレーズのレベルの知識しかなく、デンマークもスウェーデンも一緒くたにしていた私。そんな中で、寺田先生の授業は浅い知識しかなかった私を新しい関心、興味へのステージへと導いてくれました。

先日、受け持っている授業でバリアフリーデザインやユニバーサルデザインの話をしよと考え、海外事例を学ぶ本を探していました。その中で、「五感を刺激する環境デザイン・デンマークのユニバーサルデザインに学ぶ」*1という本に出会いました。私はこの本をパラパラと眺め、そして、「デンマークでは、福祉分野に関わる専門家でも「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」という言葉を知らない人が多い。」という一文に線を引いていました。

その時は、「バリアフリーとユニバーサルデザインという言葉の違いなんてどうでもよく、その本質を優先し、大切なのは障害者が必要とするデザインを考えることだ。」と書いてあることに、「なるほど。」と、という感じで簡単に納得して通り過ぎていたのでした。デンマークが「その本質を優先している。」というその背景や本当の意味を探る作業まではしていなかったのです。

今回の授業を聞いて、「言葉ではなく、その本質を優先している」ということの背景を考えることができました。ユニバーサルデザインという概念を持たなくても、当たり前のように誰もが使えるデザインになっている、ということなのだと思います。デンマークは全ての人々が普通に心配なく生活できる国であり、障害のある人もない人も、どんな立場の人でも「その人の人生を生きる権利を与えられた国である。」ということが、バリアフリーとユニバーサルデザインという2つの概念をそもそも必要としない背景としてある、と理解することができました。

昨年の夏、私は北欧の建築を見る旅の中で、半日だけコペンハーゲンに滞在しました。ちょうど週末だったこともあり、夏の爽やかな陽気を満喫するように街には人が溢れていました。街並みは美しく、誰もが幸せそうな、賑やかな雰囲気でした。

歩きながら、古い街並み、近代建築や現代建築に目を奪われ、家具やインテリア、全てのものにデザインの質の高さを感じました。そして、デンマークの人々は身の回りにあるもののデザインにこだわって生きていると思いました。

良いデザインは誰にでも心地よさを与えてくれます。心地よいということは、生きていく上で重要な要素です。デンマークの人々は良いデザインにこだわっている、つまり、心地よさに貪欲であるということだと思えます。同時に、それは、生きていることを大切にしている現れであるとも考えます。

授業を通し、また、コペンハーゲンでの旅を思い出しながら、デンマークから「生きることの意味」を学ぶべきだと強く感じました。そしてそれには、生活を楽しむ、幸せを感じる力も必要だと思います。日本人も「生きること」について改めて考え、幸せを感じる力を磨く必要があるのではないのでしょうか。



写真：コペンハーゲンの風景

私自身のこと。

実は、寺田先生の授業、そして放課後でのトークを聞いていた時は、正直に言うと本の一節を思い出してはいませんでした。それに、もう一つ、私は昨年建築を見る旅での経験も思い出していませんでした。いろいろなスケジュールを調整して行って、あんなに感動した旅だったのに。

帰りの電車の中で、本のこと、旅行のことをうっすらと思い出して、次の日に本棚と旅行の記録を確認しました。そして、拾い読みしかせずしまっていた本を、これから読む本の方に入れ直しました。旅行の行程を記録したメモと写真には、コペンハーゲンを半日歩いていたこと、綺麗な写真が沢山残っていました。写真を見ればありありと思い出せる、こんなに大事な経験を私は何で忘れてしまっているのだろう、、、。

なぜ、すぐ思い出せなかったのかと、理由を考えていたのですが、私の記憶力が悪い、ということ以外に、「忙しすぎる、生活に余裕がない、頭の中が目の前にあるそのことでいっぱいになっている。」ということが原因なのかと思いました。

もしかして、もう少し気持ちにも時間にも余裕がないと、ただこなしてしまっている人生になってしまうのかと、心配になりました。そして、私こそ、生きる意味を考え、幸せを感じる力を磨かなければならないと反省しました。

本を読み直すきっかけにもなり、そして、旅行で感じたことを思い出し、さらには自分のことにも気づくことができました。本当に私にとって実りの多い授業だったと思います。ありがとうございました。

*1：五感を刺激する環境デザイン・デンマークのユニバーサルデザインに学ぶ / 田中直人・保志場国夫著 彰国